

第 11 回北上川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、□行政委員、●事務局)

1. 北上川水系河川整備計画の進捗状況

●資料 1-1 の説明

○P.26 の樹木伐採について、都市の整備と河道の樹木管理の両方とバランスを取りながら、国と市町村が一体となって検討する必要があるのではないかと。

●今回の樹木伐採は、市の将来的な整備構想を踏まえた上で、先ずは、不法投棄対策として河川環境の改善を図ったものになっています。

□都市側から見た場合の景観及び動植物の多様性についてバランスを見ながら今後検討していきたいと思えます。

○22 頁の堤防の量的整備について、事業費に対して整備延長が短いように思われる。この関係性について分析していれば説明して欲しい。

●事業費には一関遊水地の事業費が含まれていますが、堤防の量的整備の延長には含まれていません。また、堤防の量的整備の延長には、完成堤の延長のみを計上しており、暫定堤の場合は、事業費は反映されますが整備延長に反映されていません。そのため、投資した事業費に対して整備延長の比率が伴っていない表現になっています。

○今の進捗状況の表現では、誤解を与える可能性がある。河川整備の進捗状況を効率性の観点で整理する必要がある。

○P.35 の四十四田ダム上流において、貯砂床止めを整備しているが貯水池の機能維持に対する将来の計画はどのようになっているのか。

●四十四田ダムでは、溜まってきている土砂のスピードを少しでも遅くして、貯水池の延命化を図れるよう貯砂ダムを整備しています。貯水池の機能維持のための中・長期のプログラムの検討を今進めている状況です。

○48 頁の汽水環境の変化について、震災後による地盤沈下によりシジミに対する影響が非常に大きく変化したのは分かるが、その他の生物やあるいは新たに進入してくる生物に対する調査はなされているか。

●環境面に関しては、生物調査を行っています。汽水環境が広がってきたということで、河川単独の場合の生物相よりも多様な種が入って来ているという評価になると推測しています。

○新しい生態系が出来たことを示せるようなデータを提示していただくと、地域も非常に安心すると思われる。

○河川の整備による、水系全体としての土砂の移動予測を、遊水地や農地に溜まるものを

含めて、どのように評価しているのかをお伺いしたい。

○土砂の総合管理は、国土交通省で各河川について、検討を始めたばかりと思われる。北上川水系では、総合土砂管理に関する検討委員会等は、まだ開催されていない状況である。

○渋井川の決壊の原因はわかっているのか。

●県では、痕跡調査の結果から、越水ではないという評価をしているようです。今後、学識者の方を検討会に入れて堤防の決壊のメカニズムについて検討を進めていると聞いています。

○堤防が高くなるほどパイピングを起こしやすく、結局質的な整備が必要になる。安全度の評価において、質的整備と量的整備をどのように関係付けて、考えていくのか。

●量的な整備を中心に進めておりますが、過去の被災事例や既往の検討結果から漏水の危険箇所は把握しております。その様な箇所については、水防活動で重点的に監視する区間として定め、今回の洪水でも水防団等に対応いただいています。質的整備については、洪水により漏水が発生した箇所について、事後対応として実施しているのが現状です。

2. 河川整備計画事業・事業評価

●資料 2-1 の説明

○30 頁の当面事業の B/C について、建設費を見ると約 2 倍になっているが、何が原因なのか。

●今回の当面事業の期間は、一関遊水地及びその下流の狭隘部の治水対策が概ね完成する事業工程となっており、特に遊水地の 3 つの水門の負担が大きいため、前回の当面事業期間の事業費よりも増えています。

○35 頁の全体 B/C について、費用便益が高いのは、平成 22 年時点の人口が将来推計でも殆ど変わらないとしているためか、あるいは土地利用の高度化による影響を評価しているのか。

●B/C の算出は、平成 22 年の国勢調査の人口データを使用しており、震災の影響や将来人口の減少については、考慮していません。一方で、人口全体は減少傾向に向かいつつも、保全対象とする区域については住宅地が増加してきている等、人口の予測が立たないため、今回は、公表されている統計資料を使用して B/C を算出しています。

○26 頁の当面事業の効果について、荒雄付近で整備後に浸水域が増えている箇所がある。これは河川整備の影響により浸水域が増えたということか。

●確認いたします。

○32 頁にコスト削減の方策が示されているが、事業評価の建設費にコスト削減分を反映させているのか。

- コスト削減の効果は、最終的な事業完了まで確定しないため、事業の全体額は変更していません。

3. 北上川上流直轄河川改修事業(一関遊水地)事業評価

- 資料 3-1 の説明

□20 頁のストック効果について、B/C や被害軽減期待額以外のこうしたプラス α の効果があるというところは認識いただきたい

4. 北上川上流土地利用一体型水防災事業(一関・川崎地区)事業評価

- 資料 4-1 の説明

○計画時から最終的には事業費が大分減少しており、計画時の評価を厳格に考えてほしい。

以 上